

新入社員が「働き方改革」で最も関心のある勤務形態について
 (平成30年度 労働経済白書 p211より)

(公財)日本生産性本部が実施している「新入社員 春の意識調査」では、2017年より、「働き方改革」で最も関心のある勤務形態を把握している。

コラム2-7図により、2018年春に調査した結果をみると、男女計では「在宅勤務」が26.1%と最も多く挙げられており、次いで、「転勤のない地域限定勤務」が22.9%、「短時間型勤務」が20.1%、「サテライトオフィス等の施設利用型テレワーク制度」が17.2%、「朝型勤務」が9.9%、「モバイルワーク制度」が3.7%となっている。

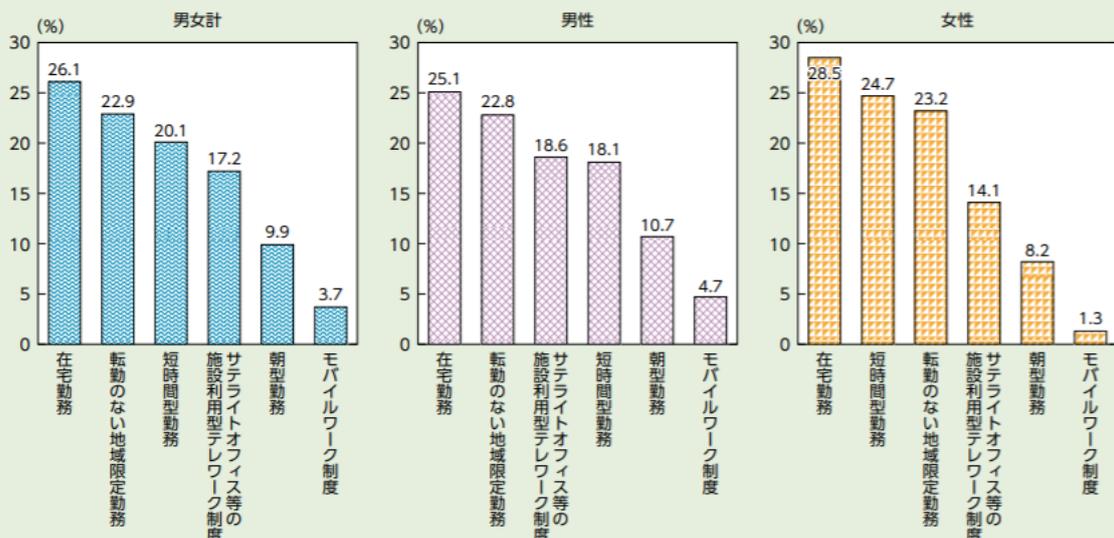
上位3つに着目し、男女別にみると、「在宅勤務」では、男性が25.1%である一方で、女性が28.5%となっている。「転勤のない地域限定勤務」では、男性が22.8%である一方で、女性が23.2%となっている。また、「短時間型勤務」では、男性が18.1%である一方で、女性が24.7%となっている。

つまり、新入社員が「働き方改革」で最も関心のある勤務形態として挙げられている上位3つを男女別にみると、いずれにおいても女性の関心が高く、特に「短時間型勤務」では、男女で6.6%ポイントの差が生じており、女性の関心が強いことが分かる。

また、ここまで検討してきた「転勤のない地域限定勤務」についても、男性では2位に、女性では3位に挙がっており、男女ともに関心の高さがうかがえる結果となっている。

コラム2-7図 新入社員が「働き方改革」で最も関心のある勤務形態について

○ 新入社員が「働き方改革」で最も関心のある勤務形態をみると、男女計では「在宅勤務」「転勤のない地域限定勤務」「短時間型勤務」が上位3位となっている。



資料出所 (公財)日本生産性本部「2018年度 新入社員 春の意識調査」をもとに厚生労働省労働政策担当参事官室にて作成
 (注) 本調査のサンプルサイズは1,914となっている。

白書・労働経済の学習方法でも記載しましたが、「キーワード、数字を拾ってカードに書き写して、自分の手の内に収める。」に関するサンプルです。

出典を簡単に記載します。確認用又は追加で作成する際に必要です。労働経済白書を略して記載

労経白書 (p211)

働き方 新入社員1位

在宅勤務

記載の POINT は、1項目だけです。ここに1位から3位まで、あるいは男女別とか書きだしたら混乱してしまいます。少しずつ増やしていきます。